

柳川先生に感謝状

この日、新年交歓会の席上で、長い間地域医療に貢献され、昨年末で引退された内科・外科医師の柳川儀助先生（86）と、柳川先生が赴任してから今日まで、

日常生活の援助を続けてこられた吉岡實さんに町から感謝状が贈られました。

都内出身の柳川先生は、戦時中に軍医として当地（当時は大総村）に派遣され、終戦時に当時の村長から懇願されて無医村であった同地域で診療を始めました。以後54年間、地域の“赤ひげ先生”として住民医療に携わりつづけてきました。

長い間、ほんとうにありがとうございました。



アトラクション終了後は、元議長で現在町観光協会長の平山敬止さんの発声によって乾杯。出席者のみなさんは、新年の酒を呑み交わしながら今後のまちづくりなどについて意見交換をしていました。

来賓祝辞につづいて行われた式典アトラクションでは、中台梯子獅子保存会のみなさんによる獅子舞いが披露され、空中アクロバットのような妙技に、会場からは割れんばかりの拍手が送られていました。

状況の中ではあるが、二十一世紀に向けた明るいまちづくりを進めるためには、行政と町民のみなさんが一体となって取り組んでいくのが重要なので協力してほしい」と理解と協力を求めました。



『21世紀に向けた明るいまちづくり』に協力要請

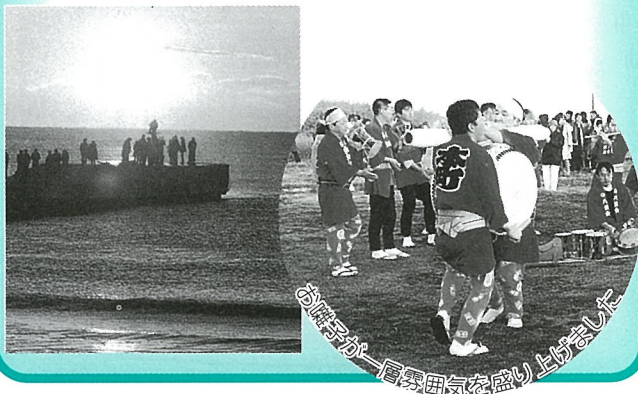
新春恒例の「横芝町新年交歓会」が1月7日、町文化会館を会場に開かれました。

この交歓会は、町内の要職にある方々や名士の方が一堂に会し、今年一年の抱負やこれからの町づくりについて語りあおうと毎年行なわれているもので、今年も約160名のみなさんが出席。席上、あいさつに立った實川町長は、「厳しい財政状況の中ではあるが、二十一世紀に向けた明るいまちづくりを進めるためには、行政と町民のみなさんが一体となって取り組んでいくのが重要なので協力してほしい」と理解と協力を求めました。

『2000年の初日』屋形海岸で約3000人が選擇

元旦の屋形海岸では、7年前から「町観光協会」、「商工会」、「生き活き横芝まちづくり推進協議会」の方々による“あま酒サービス”が行われており、初日を拝みに訪れたみなさんに大変よろこばれています。今年は、2000年を記念し、このほかに“紅白餅”の無料サービスが行われたほか、本町区若囃子連の方々による“お囃子”が一層雰囲気盛り上げました。

午前6時50分、水平線にかかる雲が真っ赤に染まりはじめると“ドドーン”と花火が打ち上げられ、かがり火で暖をとっていた人たちも一斉に東の空を注目。訪れた約3000人のみなさんは、水平線の雲間からゆっくり昇る記念すべき『2000年の初日』を思い思いに拝んでいました。



五穀豊穡・無病息災を祈願 屋形里神楽

1月16日（日）、屋形・四社神社で、神楽保存会のみなさんが今年一年の五穀豊穡、漁業の安全と豊漁、そして地域の人々の無病息災を祈って“里神楽”を奉納しました。

元禄年間（一六八八―一七〇四年）に始められと伝えられるこの伝統ある神楽は、現在は、1月の第3日曜日に行われています。天狗や白女命、八幡神などの厳肅な舞いが拝殿東側の回廊に架設された広さ4坪（2間4面）、高さ約5尺の神楽舞台で披露されました。境内には、この“舞”を写真に収める人、じっくり見守る氏子のみなさんの姿が大勢見られました。